

# 日本海溝・千島海溝周辺海溝型 地震におけるTEC-FORCE活動計画 (受援計画)について

共に北海道の未来を創る  
第9期北海道総合開発計画



北海道開発局ホームページへはこちらから。

# 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震におけるTEC-FORCE活動計画 (受援計画)について

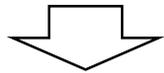
北海道開発局は、令和6年11月に日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震におけるTEC-FORCEの活動計画(受援計画)を策定しました。地震発生時、全国から800人\*1～1,120人\*2のTEC-FORCE隊員が北海道へ応援に来ます。

## 【計画策定の流れ】

○中央防災会議  
(令和5年5月中央防災会議幹事会決定)

○『日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震』における応急対策活動を策定

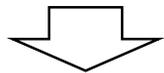
- ・救助・救急、消火等  
(TEC-FORCE派遣人数(1,580人\*3)を決定)
- ・医療・物資調達
- ・燃料、電力・ガス、通信臨時供給



○国土交通省  
(令和6年3月国土交通省策定)

○『日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震』におけるTEC-FORCE活動計画(全体)を策定

- ・『日本海溝地震』発生時は、隊員の約5割(800人)を北海道へ派遣。
- ・『千島海溝地震』発生時は、隊員の約7割(1,120人)を北海道へ派遣。



○北海道開発局  
(令和6年11月北海道開発局策定)

○『日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震』における受援計画を策定

- ・TEC-FORCEの具体的な受入体制を策定(隊員及び災害対策機械の活動場所・進出方法等を策定)

### TEC-FORCEの派遣規模と派遣先

### 北海道開発局策定

■受援地方整備局(以下地整)と応援地整

被害が想定される北海道開発局と東北地整が受援地整。応援地整(7地整)は被害全容の把握を待つことなく、北海道開発局と東北地整へTEC-FORCEを派遣し、応急対策活動を直ちに開始する。

#### 日本海溝地震

■北海道への日最大派遣規模

- ・地整TEC-FORCE隊員: 800人
- ・北海道開発局隊員: 380人
- ・地整災害対策用機械: 210台
- ・北海道開発局機械: 60台

#### 函館開発建設部管内

近畿: 220人/日  
北海道: 80人/日  
計300人/日 (25%)

#### 室蘭開発建設部管内

九州: 220人/日  
北海道: 150人/日  
計370人/日 (31%)

#### 千島海溝地震

■北海道への日最大派遣規模

- ・地整TEC-FORCE隊員: 1,120人
- ・北海道開発局隊員: 380人
- ・地整災害対策用機械: 280台
- ・北海道開発局機械: 60台

#### 函館開発建設部管内

近畿: 220人/日  
北海道: 50人/日  
計270人/日 (18%)

#### 室蘭開発建設部管内

九州: 290人/日  
北海道: 80人/日  
計370人/日 (25%)

#### 釧路開発建設部管内

北陸: 190人/日  
北海道: 80人/日  
計270人/日 (23%)

#### 帯広開発建設部管内

中国: 170人/日  
北海道: 50人/日  
計220人/日 (19%)

#### 釧路開発建設部管内

北陸: 190人/日  
中部: 130人/日  
四国: 120人/日  
北海道: 130人/日  
計570人/日 (38%)

#### 帯広開発建設部管内

中国: 170人/日  
北海道: 60人/日  
計230人/日 (15%)

応援災害対策用機械は、フェリーで小樽港へ入港

応援災害対策用機械は、フェリーで小樽港へ入港

\*1: 日本海溝型地震発生時、\*2: 千島海溝型地震発生時 \*3: 運輸・航空局職員70名含む